

特集：日鶏協のいま

本年 6 月に開催された総会から新しい執行部が発足し、現在までに組織改革及び養鶏生産に関わる諸問題に対する検討が、専門委員会を中心になされてきました。その結果、12 月 17 日に開かれた理事会において、1 月 19 日に臨時総会が開催されることとなりました。今回の理事会までに至る経緯と、臨時総会で確認されるべきポイントについて、ご説明致します。

1. 現在までの経緯

6 月 17 日の総会において栗木新会長が選任され、副会長等も新たな人事により始まりました。栗木会長としては業界の大同団結の機会が来たという考えより、諸問題に対する専門委員会を立ち上げて、具体的な改善案を理事会に諮問することとし、以下の専門委員会が立ち上げられました。

- (1) 組織改革委員会
- (2) 鶏卵生産者経営安定対策委員会
- (3) 国際競争力強化委員会
- (4) 鳥インフルエンザ問題対策委員会

それぞれの委員会の当面の課題解決のために以下の方々が取組んでおられます。

(◎委員長○副委員長、敬称略)

① 組織改革委員会

〈課題〉 日鶏協の組織強化に関する事項

- 1) 二重会費問題
- 2) 地方組織強化対策
- 3) 手数料問題

〈委員〉◎栗木、○斉藤、都丸、秋田、彦坂、坂本、磯ヶ谷、上田、杉原、安原

② 鶏卵生産者経営安定対策委員会

〈課題〉 養鶏経営の安定化に関する事項

- 1) 鶏卵価格差補填事業
・基準単価

- ・積立金単価
- ・手数料
- 2) 成鶏更新・空舎延長事業
- ・協力金
- 〈委員〉◎都丸、○三品、秋田、彦坂、齋藤、梅原、松本、高野

③ 国際競争力強化委員会

〈課題〉国産鶏卵の国際競争力強化に関する事項

- 1) 生産資材調達コスト
- 2) 流通コスト
- 3) 法令等による規制
- 4) 鶏卵バイヤーとの交渉力
- 5) アニマルウェルフェア

〈委員〉◎磯ヶ谷、○中山（真）、赤木、彦坂、竹下、中山（晋）

④ 鳥インフルエンザ問題対策委員会

〈課題〉鳥インフルエンザ等の防疫問題に関する事項

- 1) 鳥インフルエンザ防疫体制
- 2) 鳥インフルエンザ被害への補填問題
- 3) 鳥インフルエンザワクチン等の技術問題
- 4) 各国の状況

〈委員〉◎秋田、○上田、赤木、高村、鈴木、斉藤、坂本、青野

また前年度より続いて鶏卵生産者安定対策事業に関して、審議委員会も開催され、理事会への報告がなされました。審議委員会では主に次年度の鶏卵生産者経営安定対策事業の積立金、協力金、手数料等について、下記の委員により検討されてきました。

〈委員〉◎都丸、石橋、釘田、金井、杉原、十川、小島、杉江、彦坂、廣川

上記の専門委員会のうち、①と②の委員会では迅速に討議を続けてきました結果、12月17日の第6回理事会への諮問を行い、理事会で検討されました。

2. 現状までの検討結果と方針

現在までの課題の大きなものとしては、以下があげられます。

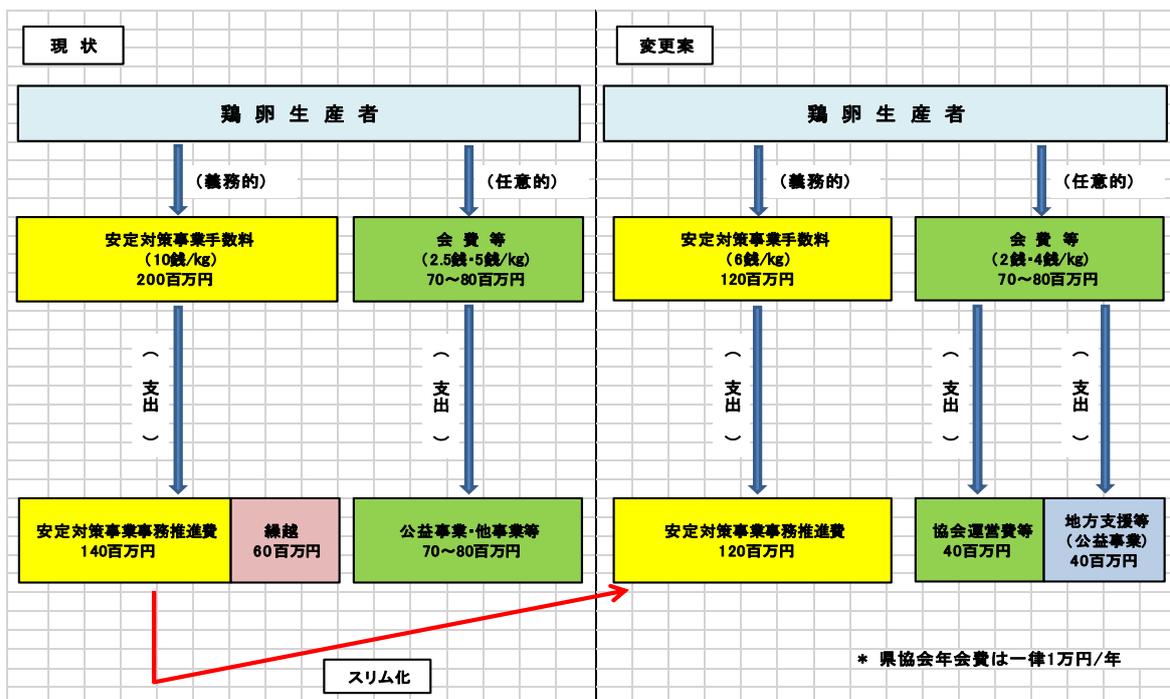
- ・日鶏協の組織強化（特に地方組織）
- ・鶏卵生産者経営安定対策事業の手数料

これらの課題を改善するための検討と方針が以下示され、確認されました。

【日鶏協会費及び鶏卵生産者経営安定対策事業手数料の在り方の検討】

課題	検討事項	検討結果	方針
会費の有効な使い道は考えられないか	日鶏協の基礎的な活動経費はどれくらい必要か	現状8千万円強の半額程度が必要額	全体会費収入を増額しないで、地方活性化資金を確保する
県協会の日鶏協への会費負担を小さくできないか	県協会からの会費を減額しても日鶏協の活動は可能か	上の結果を踏まえれば県協会から日鶏協への会費負担減額は可能	県協会の日鶏協への会費負担を1万円程度に減額する
地方組織の活性化ができないか	資金源をどこにもとめるか	会費収入であれば地方支援は可能	会費収入の一部を地方活性化資金に活用する
鶏卵生産者安定対策事業の手数料は妥当か	鶏卵生産者安定対策事業の事務局運営費はどれくらい必要か	現状1億4千万円程度だが、1億2千万円程度まで（6銭/契約数量K g 相当）圧縮可能	手数料の減額（6銭/契約数量K g 相当）

【安定対策事業手数料及び会費変更案】



前ページの図（【安定対策事業手数料及び会費変更案】）によると現状としては、日鶏協会員で安定対策事業に参加されている生産者の方は、手数料として 10 銭/Kg 義務として払い、同時に（規模により）2.5 銭～5 銭/Kg の日鶏協会費を払っています。その結果、手数料分が安定対策事業推進費に充てられ（全体総額では 140 百万円）、会費見合い分が公益事業や他事業に充てられ（全体総額では 70～8 百万円）ています。現状としては手数料見合い分から約 60 百万円が使途も無く、繰越されています。

今回の変更案では手数料を 6 銭/Kg に減額し、日鶏協会費も一部減額するというものです。また地方への支援も増額するというものです。具体的には以下の内容となっています。

平成 28 年度会費（案）

注：（ ）内は平成 27 年度会費

（1）個人会費

平成 28 年度配合飼料価格安定基金との年間契約数量等に基づき、次の単価を乗じた値を会費（飼料ト当たり）とする。

年間配合飼料契約量 4,000 ト以上の養鶏経営者 19.05 円/ト (23.81 円/ト)

(1,000 k g (飼料) ÷ 2.1 (要求率) × 0.04 円/k g = 19.05 円/ト)

年間配合飼料契約量 4,000 ト未満の養鶏経営者 9.52 円/ト (11.9 円/ト)

(1,000 k g (飼料) ÷ 2.1 (要求率) × 0.02 円/k g = 9.52 円/ト)

（2）道府県養鶏協会会費

1 万円/県養鶏協会

(11.5～103.5 万円)

（3）その他団体会費

27 年度実績の半額

今回の理事会で上記平成 28 年度会費案とこれに伴う臨時総会開催案は可決され、1 月 19 日に臨時総会が開催されることとなりました。

3. 定款変更について

臨時総会に於いて上記の平成 28 年度会費案とともに、以下の様に日鶏協定款の一部変更が検討・議決されることとなりました。

1 事業内容に関する変更（第 4 条関係）

（1）要点

鶏卵生産者経営安定対策事業の内容として「成鶏更新・空舎延長事業の内容」を明記する。

（2）理由

鶏卵生産者経営安定対策事業の内容として、従来は「価格差補填事業」のみ記載され、全体を示すものとなっていなかったものを是正するため。

2 会員に関する変更（第 5 条関係）

（1）要点

一般社団法人日本鶏卵生産者協会を会員から除く。

（2）理由

会員であった一般社団法人日本鶏卵生産者協会が解散したため。

3 役員に関する変更（第 2 1 条関係）

（1）要点

副会長数 3 名以内を 5 名以内に変更する。

（2）理由

幅広い観点からの職務の執行を行う体制を確保するため。

4 会計監査人の設置に関する変更（第 2 1 条～第 2 7 条、第 3 7 条関係）

（1）要点

会計監査人を置く。

（2）理由

平成 2 7 年度決算において、貸借対照表の負債の部の額が 2 0 0 億円以上となることが見込まれ、一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に従って、会計監査人を置かなければならないから。

なお、負債の部の額が 2 0 0 億円以上となる主因は鶏卵生産者経営安定対策事業の生産者積立金等の金額が増加したことによるもの。

臨時総会で平成 28 年度会費案が可決されれば、各会員の負担も減額されますが、これを機会にまだ日鶏協の個人会員となっていない生産者に働きかけ、より一

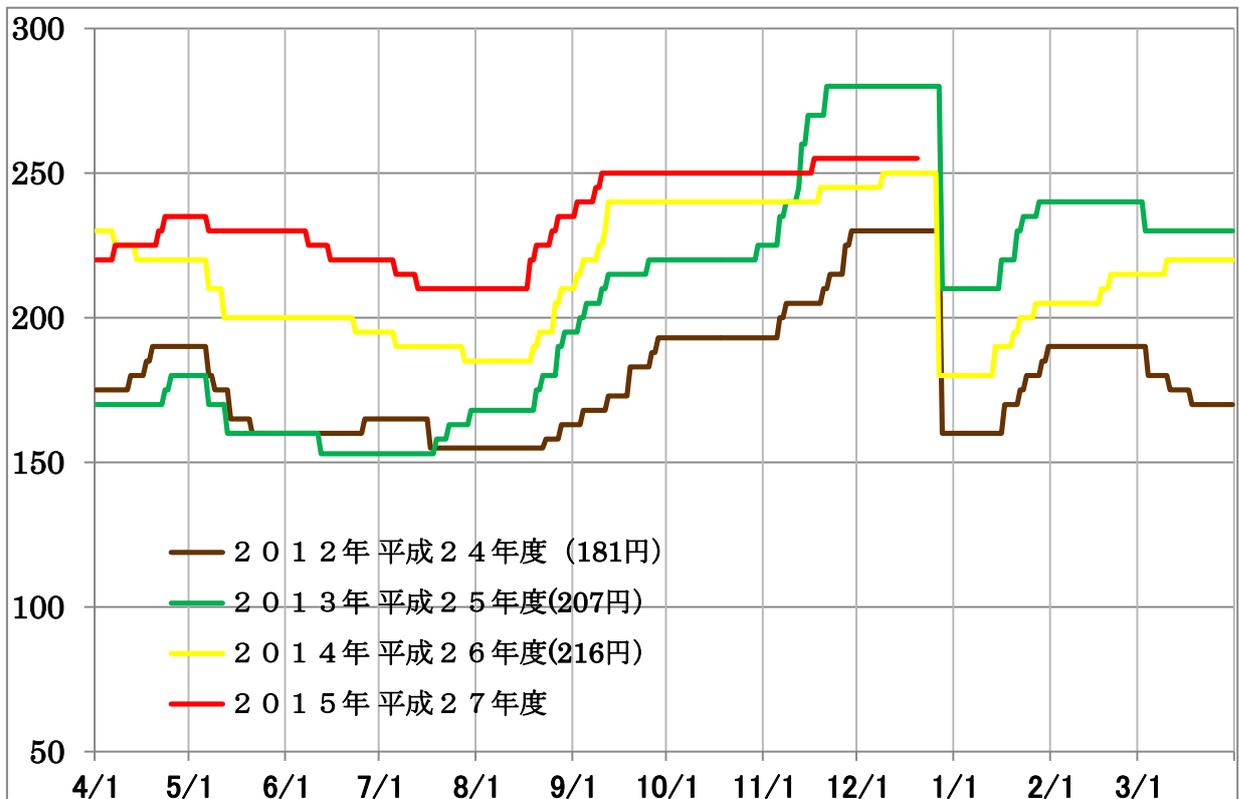
層の業界団結を図らねばなりません。そして一丸となって鶏卵生産者としての立場を明確に主張していく事が国民の健康的な食生活に寄与していく道であり、養鶏産業として発展していく道であります。

【相場動向】 過去 10 年間の 11 月相場

	平均値	高値	安値
平成18年	208	222	205
平成19年	175	180	170
平成20年	205	205	205
平成21年	188	205	180
平成22年	206	235	195
平成23年	194	195	190
平成24年	209	230	193
平成25年	259	280	225
平成26年	242	245	240
平成27年	252	255	250
平均値	214	225	205

平成 27 年 11 月の鶏卵相場（東京全農 M サイズ）は 252 円となりました。これは昨年の 242 円よりは 10 円高くなり、先月の平均値 250 円より 2 円高くなりました。11 月としてはフラットな相場展開となりました。

【鶏卵相場推移 2012 年～2015 年 会計年度 東京全農 M サイズ 円/Kg】



【鶏卵関係主要計数】10月までの1年間の主要計数推移

	雛餌付羽数(出荷)		配合飼料出荷量		家計消費量		鶏卵相場	
	数量(千羽)	前年比	数量(千ト)	前年比	数量(グラム)	前年比	東京全農M	
平成26年							本年	前年
11月	8,136	98.7%	454	97.8%	843	101.2%	248	259
12月	8,803	108.6%	533	105.5%	880	102.8%	222	280
27年1月	8,506	109.5%	462	99.9%	765	96.4%	192	224
2月	8,273	102.6%	449	101.4%	819	101.9%	209	240
3月	9,263	107.3%	480	97.3%	851	103.6%	219	230
4月	8,411	95.9%	479	103.5%	838	107.0%	227	223
5月	8,989	101.6%	451	94.9%	856	100.0%	230	204
6月	9,084	102.8%	454	101.6%	803	94.5%	223	199
7月	8,831	99.6%	461	102.3%	818	101.1%	213	190
8月	7,502	103.0%	427	100.2%	805	100.5%	219	192
9月	8,444	95.6%	455	101.0%	802	97.2%	247	231
10月	8,862	104.3%	476	97.6%	851	103.9%	250	240
1年間小計	103,104	101.4%	5,581	100.2%	9,932	100.8%	225	226

先月同様、10月までの一年間での配合飼料出荷量/一人当たり家計消費量が同じ様な比率で前年対比伸びており、バランスが取れた形で生産量/消費量が前年同期並みとなっていることを示しています。雛餌付羽数は9月の落ち込みを調整するかの様な10月の前年対比増加となっており、この1年間では前年同期対比増加が続いております。

【協会活動報告】 [\(下線色付き部分はホームページに連結\)](#)

①各種事業についての報告

[\(1\) 鶏卵生産者経営安定対策事業](#)

1) 価格差補填事業の事業参加者との契約数量(月当たりト)

平成25年度	164,822
平成26年度	160,792
平成27年度	161,936

・11月の標準取引価格 247.81 円/Kg(補填なし)

2) 12月18日に平成28年度補填基準価格及び安定基準価格が公表されました。

農林水産省ホームページ [平成28年度畜産物価格等の決定について](#)

http://www.maff.go.jp/j/press/seisan/c_shokuniku/151218.html

補填基準価格と安定基準価格の推移 (円/Kg)

	補填基準	安定基準
23年度	183	156
24年度	185	158
25年度	186	159
26年度	187	166
27年度	188	167
28年度	189	169

(2) 国産鶏卵に関する普及啓発事業

・12月14日に国産鶏卵に関する普及啓発委員会が開催され、「いいたまごの日」の総括として、主催に携わった業者の方々（マイナビ社、ケーオーアップ社）をお呼びして、意見をお聞きしました。またいいたまごの日啓発活動として配布されたオムライスリーフレットキャンペーンの調査アンケートに関する結果が報告されました。

(3) 畜産物輸出特別支援事業

・鶏卵輸出準備分科会会員による香港での調査が11月29日～12月4日に行われました。今回は既に開始したロゴマーク表示についての現地の業者の意見を伺うとともに、ロゴマーク浸透の協力要請を行いました。この結果を受けて、香港でロゴマークをアピールする宣伝活動を行う事としました。

・日本畜産物輸出促進協議会の一員として、12月24-28に香港フードフェスティバルに6名が参加して、「日本のたまご」ロゴマーク宣伝や試食等の活動を行う事となりました。

・日本畜産物輸出促進協議会が参加する「日本食フェア」（1月9-10日、シンガポール）に分科会より2名の会員が参加して、「日本のたまご」の良さをアピールすることとなりました。

・平成27年度畜産物輸出特別支援事業として、分科会では2月下旬に先日輸出解禁となった台湾においての現地調査を行うこととしました。

②会議等

(1) 正副会長会議、理事会

12月17日に第6回の会議を開催しました。詳細は本号の特集の通りです。

(2) 鳥インフルエンザ問題対策委員会

12月18日に本年度第2回目会議が開催されました。特別ゲストとして南勢養鶏：萩原社長にご参加頂き、同社長が経験された鳥インフルエンザ問題に対する、ご意見等をお聞きしました。同社長よりは「家畜防疫互助基金」と「つなぎ融資」が大変重要であった事が、何回も力説されました。

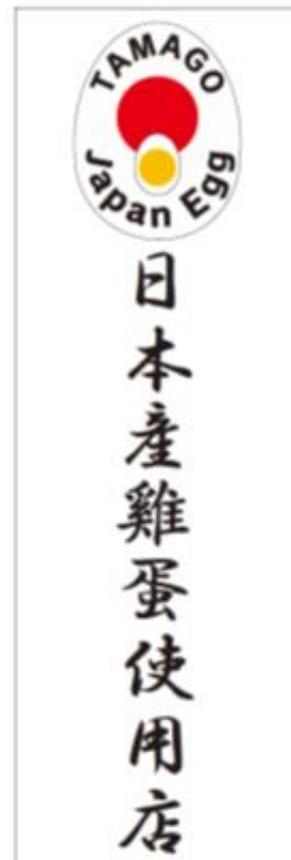
③今後の予定

1月 19日（火）正副会長会議、理事会、臨時総会、国産鶏卵に関する普及啓発事業委員会

2月 10日（水）正副会長会議、理事会

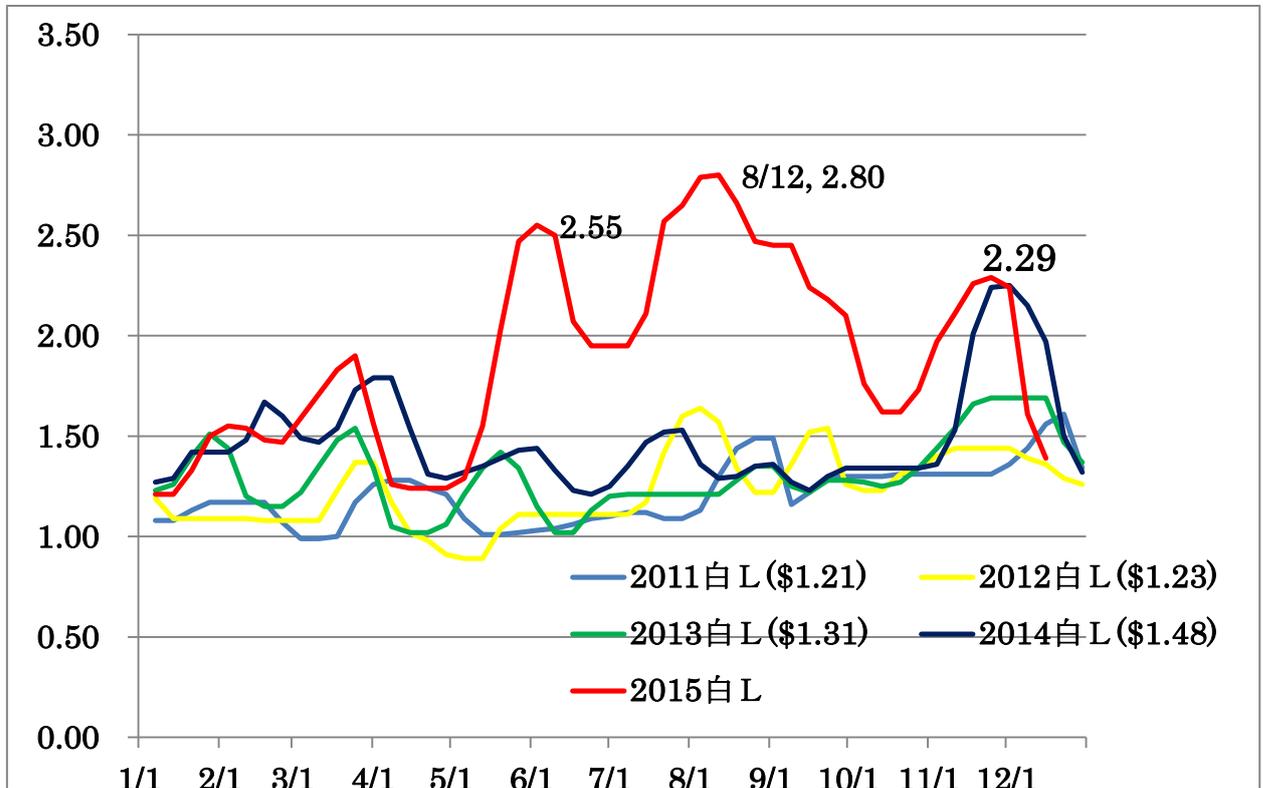
【香港市場向け「日本のたまご」ポスター】

【香港飲食店向けプレート】



【米国鶏卵相場チャート】

米国 鶏卵相場推移 週ごと 2011-2015 年 北東部 白Lサイズ
ドル/ダース



米国の鶏卵相場は春先に起こった高病原性鳥インフルエンザ(AI)発生により、激動の相場展開を続けました。過去の相場で2ドルを超えた事が無かったのですが、今年のAI事故の深刻化で5月には暴騰しました。その後6月中旬より発生報告が無くなったことから、一時は落ち着き始めたのが、再度上昇に転じ、8月12日の週には2.80ドルという未曾有の価格となりました。相場には山あり谷ありという通り、その後は下落しましたが、11月の感謝祭需要では例年通りの上げとなりました。鶏卵は現物しか相場が無いので、今回の様な波動があると、大きく上げ下げするという傾向がはっきりとしました。

【日鶏協ニュース】 発行者：一般社団法人 [日本養鶏協会](#)

〒104-0033 東京都中央区新川二丁目6番16号馬事畜産会館内 (5階)

TEL : (03)3297-5515 FAX : (03)3297-5519

発行日 2015年12月22日

編集・発行責任者：島田博 (fuwatama@jpa.or.jp)